

平成 21 年 6 月 11 日現在

研究種目：基盤研究(B)海外調査

研究期間：2006～2008

課題番号：18401005

研究課題名（和文）グローバル化時代の多文化主義と社会運動

研究課題名（英文）Multiculturalism and Social Movements in the Age of Globalization

研究代表者

鈴木 茂 (SUZUKI SHIGERU)

東京外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：10162950

研究成果の概要：本研究は、アメリカ合衆国を含む南北アメリカ各国における多文化主義と社会運動のあり方を、グローバル化時代におけるアイデンティティ再構築の動きとして捉え、その歴史的意義と問題点、課題を明らかにしようとするものである。3年間にわたって多文化主義政策の策定と実施に関わる政府機関と先住民およびアフリカ系人の社会運動組織での聴き取り調査および資料収集に努める一方、2年目にはベネズエラで、3年目にはブラジルで国際研究集会を開催して成果発表と意見交換を行った。

交付額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2006年度 | 4,300,000 | 1,290,000 | 5,590,000 |
| 2007年度 | 4,100,000 | 1,230,000 | 5,330,000 |
| 2008年度 | 4,700,000 | 1,410,000 | 6,110,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 13,100,000 | 3,930,000 | 17,030,000 |

研究分野：歴史学

科研費の分科・細目：人文学 A・地域研究

キーワード：グローバル化、多文化主義、社会運動、南北アメリカ、エスニシティ

1. 研究開始当初の背景

1980年代後半から1990年代にかけて、ラテンアメリカのいくつかの国々では民主化を背景に、先住民やアフリカ系人の権利獲得運動が活発となる一方、多文化主義に基づく政策が採用されるようになった。また、アメリカ合衆国では、1960年代以来の黒人に対する積極的差別是正政策が見直されるようになるとともに、ラテンアメリカをはじめ新しい移民の増大によって多文化状況が進展した。本プロジェクトの研究代表者および研究分担者は、逸早くラテンアメリカ各国におけるマイノリティの社会運動と多文化主義政

策に注目し、個別の研究成果を挙げてきていたが、グローバル化という事態を視野に入れ、アメリカ合衆国を含めた南北アメリカ全体の動向を総合的に研究したいという問題関心を共有していた。

2. 研究の目的

本研究の総体的な目的は、南北アメリカにおける多文化主義と社会運動のあり方を、グローバル化時代におけるアイデンティティ再構築の動きとして捉え、その歴史的意義と問題点、課題を明らかにする、ということである。そのため、次の2点について重点的に

調査・研究することとした。

(1) ラテンアメリカ各国における多文化主義の現状を把握し、それを生み出した背景を明らかにするとともに、国民創造や人種・民族関係の歴史の中に位置づけ、その歴史的移民を探る。その際、新しい社会運動、なかでも人種的・民族的マイノリティの権利獲得運動との呼応／拮抗関係に注目する。

(2) 人種主義撤廃運動や積極的差別是正政策の長い経験をもつ一方、近年、その成果への批判や見直しが起こっているアメリカ合衆国の現状をふまえ、多文化主義の問題点と課題を理論的に明らかにする。また、多文化主義の理論と実践をめぐる、アメリカ合衆国を含めた南北アメリカ諸国の相互関連を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) ラテンアメリカ諸国における多文化主義は新しい状況であるので、本プロジェクトでは現状の把握を第1の課題とする。そこで、本プロジェクトのメンバーを地域別に3グループ(アメリカ合衆国・ブラジル/アンデス地域/メキシコ)に分け、メンバー相互の協力を図りながら現地調査を行う。

(2) 現地では、関係機関および関係者への聴き取り調査と資料収集に加え、積極的に研究者との意見交換に努めるとともに、社会運動の活動家や政策策定者など、当事者への研究成果の還元を図る。

(3) 現地調査で得られた多文化主義と社会運動に関する知見を歴史的に位置づけるため、主に文献研究を通して、南北アメリカ各国の国民創造過程と国民統合の論理の変遷を検証する。

4. 研究成果

本プロジェクトによって、ブラジル、ベネズエラ、コロンビア、エクアドル、ペルー、メキシコ、アメリカ合衆国における多文化主義の現状がかなり明らかになった。具体的な点として、次の3つ挙げることができる。

(1) 研究対象としたラテンアメリカ諸国においては、多文化主義は多かれ少なかれ公式の言説となっており、マイノリティの権利拡大を推進するための積極的差別是正措置の導入が政治日程に上っている。他方、マイノリティの権利獲得を求めてきた先住民やアフリカ系人の社会運動は、多文化主義を標榜する政権や、いわゆる「左派政権」の政策策定に関与するようになるとともに、コオプテーションやポピュリズムの弊害が目立ってきた。その意味で、多文化主義を実現してきた民主主義の質、言い換えれば、新しい社会運動が切り開いてきた「新しい公共圏」のあり方が問われる段階に入ったと言える。

(2) 積極的差別是正措置が導入されたラテ

ンアメリカ諸国は、1960年代半ば以降のアメリカ合衆国の経験から多くを学んでいるが、現在のアメリカ合衆国において積極的差別是正措置が直面している問題については、ラテンアメリカ諸国においてはやや認識が薄いように思われる。この「ズレ」が何に起因するものであるのかは、今後の課題である。仮説としては、アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の政治的・経済的・社会的・歴史的な文脈の相違に起因するもの、あるいは積極的差別是正措置が導入される时期的な差異に起因している、ということが考えられる。

(3) 本プロジェクトで研究対象としたラテンアメリカ諸国のうち、多文化主義の受容という点では、ペルーは総体的に消極的であると言える。本プロジェクトでは、アルゼンチン、チリといった南米の主要国や中米諸国を調査することができなかったが、歴史的・社会的な共通点の多いペルーとボリビアの対照的な現状を含め、ラテンアメリカの多文化主義と社会運動については、さらに研究対象を拡げて考察する必要がある。

なお、研究期間は3年であるため、本プロジェクトの直接の成果は第2、3年度を中心に発表した。その中で、2007年9月に国立アンデス大学(ベネズエラ、メリダ)で開催した国際セミナー「文化的多様性と南北アメリカにおける社会運動」と、2008年9月にブラジル大統領府人権特別局および連邦下院第1委員会室で開催した国際コロキウム「多様性・多文化主義・社会運動-南北アメリカにおけるアフターマティヴ・アクションの今」は特筆に値するであろう。この2つの国際研究集会にはのべ30名を超える研究者、政策策定者、社会運動家の参加を得、研究レベルでの国際連携を実現することができた。また、2009年6月開催の日本ラテンアメリカ学会第30回定期大会(東京外国語大学)においては、大会シンポジウム「ラテンアメリカの民主主義と社会運動」で研究代表者の鈴木茂がコーディネータを務めたほか、3人の研究分担者がパネリストとして本プロジェクトに関連する報告を行った。

なお、上記の2つの国際研究集会を収録した映像をはじめ、本プロジェクトで収集した映像記録は、可能なかぎりweb上で公開する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

①後藤雄介「ペルーにおける多文化主義の行方—劇団ユヤチカーニの文化社会活動を手がかりに」『学術研究—複合文化学編—』(早

稲田大学教育学部) 57号、2009年、51-75頁。
(査読有)

②中條献「『バラク・オバマと大統領選挙』を歴史から見る」『世界』No. 782 (2008年9月)、204-216頁。(査読無)

③鈴木茂「ラテンアメリカの民主化と社会運動-ブラジル民主化四半世紀の経験」『歴史評論』No. 697 (2008年5月)、19-33頁。(査読無)

④石橋純「叛乱の記憶、路上の政治：チャベスの革命とベネズエラ民衆」『現代思想』36.6 (2008年5月増刊号)、228-245頁。

⑤石橋純「チャベスの10年：ベネズエラ民主主義の『質』と『価値』」『国際問題』573 (2008年7・8月)、30-39頁。(査読無)

⑥青木利夫「メキシコにおける多文化主義と教育-1970年代の先住民教育・農村教育を中心に」『文明科学研究』(広島大学大学院総合科学研究科紀要) 第3巻、2008、1-16頁。(査読有)

⑦SUZUKI Shigeru, “Brasil en la época del multiculturalismo: una polémica en torno a las acciones afirmativas,” *Humania del Sur* (Universidad de Los Andes), Año 2-No. 3, pp. 73-85. (査読無)

⑧ISHIBASHI Jun, “Multiculturalismo e racismo en la época de Chavez: Etnogénesis afrovenezolana en el proceso bolovariano,” ” *Humania del Sur* (Universidad de Los Andes), Año 2-No. 3, pp. 25-41. (査読無)

⑨新木秀和「エクアドル・コリア政権の政策課題」『ラテンアメリカ・レポート』第24巻第1号、38-45頁。(査読無)

⑩鈴木茂「多文化主義時代のブラジル社会」『世界の労働』第56巻第10号 (2007年10月)、42-53頁。(査読無)

[学会発表] (計 15 件)

①後藤雄介「ペルーにおける多文化主義の政治文化的位相劇団ユヤチカーニの活動を中心に」シンポジウム「ラテンアメリカにおける民主主義と社会運動」日本ラテンアメリカ学会第30回定期大会、シンポジウム「ラテンアメリカの民主主義と社会運動」、東京外国語大学、2009年6月7日。

②新木秀和「先住民運動と民主主義-エクアドルの事例を中心に」日本ラテンアメリカ学会第30回定期大会、シンポジウム「ラテンアメリカの民主主義と社会運動」、東京外国語大学、2009年6月7日。

③石橋純「「黒人」から「アフロ系子孫」へ-チャベス政権下ベネズエラにおける民族創生と表象戦略-」日本ラテンアメリカ学会第30回定期大会、シンポジウム「ラテンアメリカの民主主義と社会運動」、東京外国語大学、2009年6月7日。

④禪野美帆「メキシコ市内旧先住民村落に与えられた新たな呼称 - “Los pueblos originarios” とその居住者組織 -」日本ラテンアメリカ学会第30回定期大会、東京外国語大学、2009年6月7日。

⑤中條献「アメリカ合衆国における Black Reparations」シンポジウム「奴隷制・植民地主義の『罪』をめぐる体験・記憶・償い」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2008年12月14日。

⑥石橋純「『黒人』から『アフロ系子孫』へ-チャベス政権下ベネズエラにおける民族創生と表象戦略」京都大学国際シンポジウム「変化する人種イメージ-表象から考える」、京都大学、2008年12月6日。

⑦SUZUKI Shigeru, “Revalorização da mestiçagem: Re-leitura de Gilberto Freyre e a lógica da integração nacional no contexto de globalização,” Colóquio Internacional “Diversidade,

Multiculturalismo e Movimentos Sociais: Ações Afirmativas nas Américas de Hoje,” Brasília, Plenario 1 da Câmara dos Deputados, 18 de setembro de 2008.

⑧ CHUJO Ken, “Historical Context of Affirmative Action in the United States,” Colóquio Internacional “Diversidade, Multiculturalismo e Movimentos Sociais: Ações Afirmativas nas Américas de Hoje,” Brasília, Plenario 1 da Câmara dos Deputados, 18 de setembro de 2008.

⑨ ISHIBASHI Jun, Gobierno de Hugo Chávez y Movimiento Afro en Venezuela,” Colóquio Internacional “Diversidade, Multiculturalismo e Movimentos Sociais: Ações Afirmativas nas Américas de Hoje,” Brasília, Plenario 1 da Câmara dos Deputados, 18 de setembro de 2008.

⑩ ISHIBASHI Jun, “Multiculturalismo y racismo en la época de Chávez: Etnogénesis afrovenezolana en el proceso bolivariano,” Latin American Studies Association, Venezuela Section Caracas Meeting, Universidad Central de Venezuela, May 26, 2008.

⑪ 石橋純 『『21 世紀の社会主義』への挑戦—ベネズエラ、チャベス政権の課題と成果』日本政治学会、明治学院大学、2007 年 10 月 7 日。

⑫ 鈴木茂 「ラテンアメリカの民主化と社会運動—ブラジル民主化四半世紀の経験」歴史科学協議会第 41 回大会、早稲田大学、2007 年 11 月 16 日。

⑬ SUZUKI Shigeru, “Brasil na Época de Multiculturalismo - Uma Polêmica em torno das Ações Afirmativas,” Seminário Internacional “Diversidad Cultural y Movimientos Sociales en las Américas: Trazando una Alianza Global Alternativa” Mérida, Venezuela, Universidad Nacional de Los Andes, 11 de septiembre de 2007.

⑭ ISHIBASHI Jun, “Multiculturalismo y

racismo en la época de Chávez: Etnogénesis afrovenezolana en el proceso bolivariano,” Seminário Internacional “Diversidad Cultural y Movimientos Sociales en las Américas: Trazando una Alianza Global Alternativa”

Mérida, Venezuela, Universidad Nacional de Los Andes, 11 de septiembre de 2007.

⑮ CHUJO Ken, “Nationalist Discourse and the Problematic of Multiculturalism in the United States,” Seminário Internacional “Diversidad Cultural y Movimientos Sociales en las Américas: Trazando una Alianza Global Alternativa”

Mérida, Venezuela, Universidad Nacional de Los Andes, 11 de septiembre de 2007.

〔図書〕(計 8 件)

① 鈴木茂 「多人種・多文化社会における市民権—ブラジルの黒人運動とアファーマティブ・アクションをめぐる」立石博高・篠原琢編 『国民国家と市民』山川出版社、2009 年、273-298 頁。

② 石橋純 『『黒人』から『アフロ系子孫』へ—チャベス政権下ベネズエラにおける民族創生と表象戦略』竹沢泰子編 『人種の表象と社会的リアリティ』岩波書店、2009 年、244-265 頁。

③ 新木秀和 「エクアドルの政治変動と社会運動—政変の比較分析から」村上勇介・遅野井茂雄編 『現代アンデス諸国の政治変動—ガバナビリティの模索』明石書店、2009 年、315-341 頁。

④ 中條献 「シクスティーズ—社会抵抗と『新たな統合』の模索」遠藤泰生編 『アメリカの歴史と文化』放送大学教育振興会、2008 年、48-63 頁。

⑤ 青木利夫 「メキシコ教育省の再編と教育の『連邦化』」牛田千鶴編 『ラテンアメリカの教育改革』行路社、35-71 頁。

⑥ 中條献 「『白人優越主義』再考—国民国家と人種の歴史のかかわり」上杉忍・巽孝之編 『アメリカの文明と自画像』ミネルヴァ書房、95-122 頁。

⑦ 禪野美帆 「『ミシュテカ』民族意識の現在」黒田悦子・木村秀雄編 『講座 世界の先住民民族 08 中米・カリブ・南米』明石書店、2006 年、84-97 頁。

⑧ 石橋純 「ヒビ—多文化主義時代をきりひらく生き残りの達人たち」黒田悦子・木村秀雄編 『講座 世界の先住民民族 08 中米・カリブ・南米』明石書店、2006 年、300-314 頁。

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

○取得状況（計 件）

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 茂(SUZUKI SHIGERU)
東京外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：10162950

(2) 研究分担者

中條 献(CHUJO KEN)
桜美林大学・リベラルアーツ学群・教授
研究者番号：50227336
石橋 純(ISHIBASHI JUN)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号:70323318
新木 秀和(ARAKI HIDEKAZU)
神奈川大学・外国語学部・准教授
研究者番号：80276039
後藤 雄介(GOTO YUSUKE)
早稲田大学・教育・総合科学研究院・准教授
研究者番号：60296374
青木 利夫(AOKI TOSHIO)
広島大学・大学院総合科学研究科・准教授
研究者番号：40304365
禪野 美帆(ZENNO MIHO)
関西学院大学・商学部・准教授
研究者番号：20365480

(3) 連携研究者